

平成27年度 大田区立馬込東中学校 自己評価 報告書

○ 本校の概要

<p>【学校規模】 生徒数198名(全学年2学級計6学級) 教員数 15名</p> <p>【本校の特色】</p> <p>今年度で24年目を迎える生徒会主催によるアルミ缶回収運動(ユネスコスクール加盟)</p> <p>1・2年生による修学旅行見送り隊</p> <p>4名の道徳授業推進教師による道徳教育の研究推進</p> <p>生徒が毎日1ページ以上取り組む「自主学習ノート」による家庭学習の推進</p>
---

○ 自己評価及び学校関係者評価の結果の概要と改善策

大項目	目標	取組内容	目標に対する成果指標	成果評価	これまでの取組及び今後の改善策	コメント
学 力 向 上	児童・生徒一人ひとりの学ぶ意欲を高め、確かな学力を定着させます。	学習カルテを基に児童・生徒と面談し、一人ひとりの学習のつまずきや学習方法について、指導する。 算数・数学到達度をステップ学習チェックシートで児童・生徒、保護者に知らせる。 学習指導講師等による算数・数学・英語の補習を実施する。 外国語教育指導員を効果的に活用し、外国の方々のコミュニケーション能力の育成等を図っている。 授業改善推進プランを、授業に生かす。 家庭学習習慣の確立のため、「自主学習ノート」を全学級で実施する。	4: 生徒アンケートの設問「学習への取組が積極的になった」での肯定的な回答が80%以上。 3: 生徒アンケートの設問「学習への取組が積極的になった」での肯定的な回答が60%以上。 2: 生徒アンケートの設問「学習への取組が積極的になった」での肯定的な回答が60%未満。 1: 生徒アンケートの設問「学習への取組が積極的になった」での肯定的な回答が40%未満。	3	各学級において、「自主学習ノート」への取組を実施し毎日の生徒の家庭学習を担任が点検・支援した。83%の生徒は「毎日家庭学習している」と回答した。定期考査の結果や各種調査結果をもとに学習カウンセリングを行った。79%の生徒は「4月頃より学習への取組が積極的になった」と回答している。今後も、学ぶ意欲を高め、確かな学力を定着させるために、「自主学習ノート」をはじめ、学習教室や英語カフェ、各教科による補習教室など個に応じた生徒の学習への支援を続けていく。また、「家庭学習の仕方」を配布し、教師が丁寧に説明することによって、家庭学習の習慣を身に付けさせる。	・学校公開時の授業の様子など拝見しても先生方は努力していると感じる。学力調査結果が出ていないということと控えめな評価をしていると感じる。 ・もう少し努力すれば4になる子の評価は適切である。 ・自主学習ノートの取組は学級担任の熱が子どもに伝わっていると感じる。学習教室はボランティアの方によって質が高い時間を過ごしている。 ・学習カウンセリングは大切であると思う。
豊 か な 心 を 育 む	子ども一人ひとりの健全な自己肯定感・自己決定力を高め、未来への希望に満ちた豊かな人間性を育みます。	小中一貫による教育の視点に立った生活指導の充実により、社会のルールや学校のきまりなどを守ろうとする意識を高める。 道徳教育推進教師を講師とした研修や、国、都及び区の資料を活用した授業等を行う等道徳指導充実のための取組を行う。 学校生活調査(メンタルヘルスチェック)の結果よりストレス症状のみられる児童・生徒に対して組織的に対応する。 学校いじめ防止基本方針に沿って、いじめの未然防止、早期発見等のための取組を実施する。 問題行動・不登校問題等にかかわる児童・生徒に関するケース会議等を実施する。 生徒が相談する教員を選ぶ「相談週間」を実施する。	4: 生徒アンケートの設問「学校生活に満足している」、「学校の決まりを守っている」での肯定的な回答が80%以上。 3: 生徒アンケートの設問「学校生活に満足している」、「学校の決まりを守っている」での肯定的な回答が60%以上。 2: 生徒アンケートの設問「学校生活に満足している」、「学校の決まりを守っている」での肯定的な回答が60%未満。 1: 生徒アンケートの設問「学校生活に満足している」、「学校の決まりを守っている」での肯定的な回答が40%未満。	4	生徒の豊かな心を育てるため、4人の道徳教育推進教師を中心に道徳の授業研究や協議を行い指導力向上に向けて研修を行った。 93%の生徒は「学校の決まりを守っている」と回答し、問題行動等は少ない。 75%の生徒が「学校生活に満足している」と回答した。今後も、学校生活調査の結果を基に生徒面談などを実施しストレス症状の見られる生徒への対応を丁寧に行う。 さらにユネスコスクール加盟校としてESD(持続可能な開発のための教育)を進め、生徒の主体的な取組を実践し自己肯定感を伸ばしていく。	・良く対応されておりその結果も出ている。 ・運動を通して体をつくることも大切だが、食育にもっと力を入れてほしい。給食の価値をもっと子どもに伝えてほしい。 ・自己肯定感を伸ばす取組は素晴らしい。 ・心の豊かさは滞在時間の長い学校生活の影響は大きい。基本的には家庭なので保護者への働きかけも必要なのではないか。
体 力 向 上	子ども一人ひとりの身体活動量を増加させて意欲や気力の元となる総合的な体力を育みます。	新体力テストの結果を踏まえ体力向上全体計画を作成し、計画に基づいた体育指導や「一校一取組」運動や「一学級一実践」運動を実施する。 「早寝・早起き・朝ごはん」月間の取組等を通して、児童・生徒や保護者に対し、望ましい生活習慣についての意識啓発を行う。 給食指導及び教科等における指導を通して、食生活の充実・改善をねらいとした「食育」を推進する。 体育的行事、部活動、休み時間など様々な機会を通して運動習慣の確立を推進する。 体育の授業や体育的行事(体育祭や大縄跳び大会)や部活動の取組内容を充実させ、体力向上に取り組む。	4: 生徒アンケートの設問「継続的な運動を通して体力が向上した」での肯定的な回答が80%以上。 3: 生徒アンケートの設問「継続的な運動を通して体力が向上した」での肯定的な回答が60%以上。 2: 生徒アンケートの設問「継続的な運動を通して体力が向上した」での肯定的な回答が60%未満。 1: 生徒アンケートの設問「継続的な運動を通して体力が向上した」での肯定的な回答が40%未満。	3	体育の授業では毎回サーキットトレーニングを取り入れ基礎体力を付けさせている。 一校一取組として生徒会にN-1グランプリ(大縄跳び大会)を企画させ、全校生徒が朝練習に参加し主体的に体力向上に励んでいる。今後も生徒会行事として本校の伝統として続けていけるように指導し、体力向上を図る。	・体力向上に関しては校庭が狭いという悪条件にもかかわらず、体育授業や体育祭などいつも工夫を重ねられ、それなりの成果を積み上げていると思う。 ・早寝早起き朝ご飯の取組は教職員だけでなく学校・家庭一体となり取り組まないで効果にもしっかりと啓発してもよい。 ・根気強く続けることで着実に体力増強につながると思うので、楽しさを継続させるポイントにした方がよいと思う。
教 育 環 境 向 上	教員の指導力向上、施設の整備や講師・支援員の配置などの学校サポート体制の充実に取り組み、学習環境の向上を図ります。	授業公開日の授業評価を、その後の授業改善に生かす。 授業改善セミナー等の研修成果を生かし、主任教諭が助言・支援を行う校内研修等を実施しOJTを充実させる。 各種研究発表会等の研究・研修の成果を、自身の授業改善に生かす。 学力の定着と学ぶ意欲の伸長を目指し、ICT機器を活用した授業を実施する。 校内委員会等を確実に実施し、学校における特別支援教育を推進する。 「生徒の学ぶ意欲を引き出し、生徒に学習の成果を実感させる指導の工夫～授業の目標提示と振り返りの充実を通して～」を研究主題に、全教員が研究授業を実施する。	4: 生徒アンケートの設問「授業は教え方がわかりやすく満足している」の肯定的な回答が80%以上。 3: 生徒アンケートの設問「授業は教え方がわかりやすく満足している」の肯定的な回答が60%以上。 2: 生徒アンケートの設問「授業は教え方がわかりやすく満足している」の肯定的な回答が60%未満。 1: 生徒アンケートの設問「授業は教え方がわかりやすく満足している」の肯定的な回答が40%未満。	4	生徒による授業アンケート実施した。平均88%の生徒は「授業はわかりやすく満足している」と回答した。ただし、特別支援教育は必要教科によってバラツキがあり、数値が低い教科があるので、今後も教員の指導力向上を図り、授業改善を行う。	・一部教員の指導法、学習環境において改善を要するが、評価は適切である。 ・特別支援教育は必要なことだと思う。 ・生徒全体にわかりやすくするための努力をされていると思うが、学力としての結果につながっていないところが残念である。テストにむけての勉強法や家庭学習の方法まで教えていただかないとダメなのかと思う。
家 庭 ・ 地 域 の 教 育 力 向 上	学校・家庭・地域の果たすべき役割や責任を明らかにするとともに相互の連携を深め、地域とともに子どもを育てる仕組みをつくります。	教育目標・学校経営方針・学校評価等の基本情報、児童・生徒の活動情報等をホームページ等で公開及び更新することにより、積極的に情報を発信する。 地域教育連絡協議会において、児童・生徒の姿容等の具体的な資料を作成して、評価に必要な学校の情報を適切に提供し、適正な評価を受けるよう努める。 学校支援地域本部と連携するなどして、地域力を生かした特色ある教育活動を実施する。 生徒会主催アルミ缶回収運動を実施する。	4: 学校支援地域本部の学校への支援の参加人数が年間延べ85人以上。 3: 学校支援地域本部の学校への支援の参加人数が年間延べ65人以上。 2: 学校支援地域本部の学校への支援の参加人数が年間延べ45人以上。 1: 学校支援地域本部の学校への支援の参加人数が年間延べ45人未満。	4	学校支援地域本部「エンジョイ馬東」の支援を受け、アルミ缶回収、グリーンカーテン、花壇整備、補習教室の学習指導、職業人の話を聞く会、茶道体験教室、いのちの講演会を実施することができた。また、町会・自治会と協働した全校生徒参加の防災訓練を実施することができた。今後も、地域との連携を深め特色ある教育活動を実施していく。	・町会との防災訓練や大桜まつり、町会祭礼など地域行事に全校挙げて参加いただき感謝している。 ・様々な取り組みで対応も適切であり成果が出ている。 ・大切な取組だと思う。 ・学校支援地域本部は全校生徒参加の防災訓練を実施することができた。今後も、地域との連携を深め特色ある教育活動を実施していく。

○「成果評価」は、各校が4段階で定めた成果指標によって行う。

○記入にあたっては、各学校で取り組んでいる自己評価項目に照らし、該当する項目を取りまとめる。

○学校関係者評価の「評価」は、A: 自己評価は適切である B: 自己評価はおおむね適切である C: 自己評価は適切ではない D: 評価は不可能である の4点について、評価した人数を記載する。